

私がキーパーソンになり、赤米のつながりを結んでいきたい

相川七瀬 赤米大使

考えたときに、やっぱり歌を歌うのが好きだと思ったんです。それで今のプロデューサーの織田哲郎さんに歌をやらせてくださいとお願ひして拾ってもらったんです。それがデビューにつながりました。そこまでするのには時間がかかって、精神的にも大変でした。

市長 相川さんもデビューまでさまざまな挫折や苦労があったということですね。

相川 17歳ぐらいから東京と大阪を行き来してレッスンしたりレコーディングしたり。織田さんに徹底的に作詞の仕方を叩き込まれ、20歳でデビューしました。

議長 成長しようと思ったら、やればやるほど苦労が多いものです。楽なことばかりではないですよ。

市長 私も政治家を志して一度落選し、浪人生活を経て

今市長になっている。若い人に言いたいのは、夢を目指すときに、分かれ目があつたら難しい方を選んでほしい。それを乗り越えた人間が、人の痛みの分かる人になると思います。

議長 全くその通りです。順風満帆にいったら人間は進歩がないと思う。苦労があつて挫折したから、人の気持ちが分かるんです。

相川 デビュー後、1年に20曲近く作つていて、体調を崩したこともあつた。責任と重圧に耐えてこれたのは織田さんという師匠に育ててもらつていたから。自分が売れることより織田さん

のためにやりたいと思う気が強かったですね。その軸がぶれなかったから今の自分があると思う。

市長 人との出会いが大切ですね。

議長 考えてみればどの世界でも、自分一人では何もできない。周囲の人に手伝ってもらつていられるんですよ。

相川 私も織田さんとの縁がすごくあつたんだと思います。今は一人で歌詞を書いてもまずけど、織田さんが見たらなんて言うかなというジャッジする目がいいつも頭の中にあるんですよ。

市長 大きい存在なんですね。信頼関係も強いんでしょう。

議長 信頼関係がなければどんな良い事を言つても聞いてもらえないですから。その信頼関係を生むためには、うそをつかない、約束を守ることが必要です。

議会のやっていることが

市民のみなさんによく見えるように

渡邊繁雄 議長

市長 もちろん育てやすい状況を作ることも大切です。

ですが、これからは家庭や地域、学校の中で、共に子どもを育てるといふ意識改革を行いたい。

議長 行政が無限にお手伝いするわけにはいかないですからね。

相川 最近は核家族が進んできて、一人で子育てしているお母さんも多いと思います。一人で子育てをしていると行き詰まることがある。そこで力になるのは交流だと思ふんです。

議長 家庭や学校だけでなく地域との交流ということですね。

市長 私も近所の人に子どもを見てもらうことがあります。近所の人が見てくれるというのとはとても安心なんです。

相川 大都会で意外ですね。みんなであそんでみるから見えますよという話になったり、習い事にしても、いっしょに連れて行きましょうかと言ってもらえたりします。

市長 それは本当に大事なことです。では、今の若い人が夢をもつにはどうしたらいいんでしょうか。

相川 みんな絶対に夢はあるはず。大きな夢を叶えるということではなくて、日々小さな夢から叶えていくようなことから始めていく。そこから人生が広がっていくんじゃないかと思ふんです。

地域で子育てを

相川 昨年3人目の子どもが生まれて子育て真っ只中なんですけど、総社に来て「子育て王国そうじゃ」というフレーズをよく見ます。

市長 岡山県下15市の中で一番子育てがしやすい環境を整えようとやってきました。15市中、総社市のみが出生数が増えているんです。

相川 すごくいですね。

市長 行政でしていることの結果として出生数が増えているのであれば良かったかなと思ふんです。

議長 これからも子育て支援に力を入れ、親が安心して働ける環境を作つてほしい。

市長 地域がそういうチームワークをもつていることが大切ですね。

相川 そうですね。地域との交流を止めず、地域を使って子育てしていくことが大事だと思ふんです。

今年の抱負

議長 今年は議会基本条例を制定したいと思ふんです。議会放送や一般質問の一回一答形式などすでに議会改革に取り組んでいます。議会のやっていることが、市民のみなさんによく見えるように分かりやすくします。もちろん現在、当局と取り組んでいることは車の両輪となり、やっていきたいと思ふんです。

相川 4年ぶりに「今事記」というアルバムを出します。赤米応援ソング「ヒカリノミ」も入っています。震災

の後、自分自身の歌に対するあり方とかを見つめ直した作品なので、できるかぎり全国に歌を届けに行けたらいいなと思つています。

市長 総社市ともいっしょにやっつけていきましょうね。

相川 赤米大使になって2年目です。私がキーパーソンになって、赤米の神事の残る総社と対馬と種子島、赤米のつながりというものを結んでいきたいと思ふんです。

市長 昨年は8社の企業誘致に成功し、近年中に1600人前後の雇用の創出が見込まれ、総社市の形が変わろうとしています。その中で自立性を高めていく具体策をスタートさせる年になります。その政策の中に魂や心、志をどれだけ自分が吹き込めるかというのが、この1年の課題です。今日

政策の中に、魂や心、志を

どれだけ自分が吹き込めるか

片岡聡一 市長